



おぎ なおき
尾木直樹先生

教育評論家・法政大学名誉教授・
臨床教育研究所「虹」所長

講演者／パネリスト(ゲスト)

1947年滋賀県生まれ。早稲田大学卒業後、私立海城高校、東京都公立中学校教師として、22年間ユニークで創造的な教育実践を展開。その後22年間大学教育に携わり、合計44年間教壇に立つ。

2004年に法政大学キャリアデザイン学部教授に就任。2012年4月法政大学教職課程センター長・教授。定年退官後、現在は法政大学名誉教授。フジテレビ「ホンマでっか!?TV」、Eテレ「ウワサの保護者会」などの多数の情報・バラエティ・教養番組にも出演。「尾木ママ」の愛称で幼児からお年寄りにまで親しまれている。



そん み ほん
宋美玄先生

ウィメンズヘルスリテラシー協会 代表理事、日本ガスケアプローチ協会
代表理事、丸の内の森レディースクリニック院長、産婦人科医 医学博士・性科学者、日本周産期・新生児学会会員、日本性科学会会員

パネリスト(ゲスト)

1976年兵庫県神戸市生まれ。大阪大学医学部医学科卒業後、大阪大学医学部附属病院、りんくう総合医療センターなどを経て川崎医科大学講師に就任する。2009年ロンドンのFetal Medicine Foundationへ留学し、胎児超音波の研究を積む。帰国後、川崎医科大学医学研究科博士課程卒業。現在は、丸の内の森レディースクリニックの院長として周産期医療、女性医療に従事する傍ら、テレビ、インターネット、雑誌、書籍で情報発信を行う。産婦人科医の視点から社会問題の解決、ヘルスリテラシーの向上を目的とし活動中。

やま が た ぜん た ろう
山縣然太郎先生

エコチル調査甲信ユニットセンター長
参加者コミュニケーション専門委員会委員長、戦略広報委員会委員長
山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授

コーディネーター

専門は公衆衛生学、疫学、人類遺伝学。社会医学系専門医・指導医。地域で33年間に及ぶ出生コホート研究、18年間継続中の高齢者コホート研究を実施中。研究ガバナンス、先端科学と社会との接点も研究テーマ。山梨医科大学卒業。米国カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)小児科学講座留学などを経て現職。成育基本法の成育医療等協議会副座長など国の各種委員。「研究は住民に始まり住民に終わる」がモットー。

おお や ゆき ひろ
大矢幸弘先生

エコチル調査メディカルサポートセンター長
国立成育医療研究センター アレルギーセンター センター長

パネリスト

小児科医でアレルギーが専門。疫学や行動医学を研究と診療に応用している。エコチル調査の質問票や医学的検査の開発を行うメディカルサポートセンターを率いている。名古屋大学医学部卒業、同小児科、国立名古屋病院小児科、国立小児病院アレルギー科、国立成育医療センターの初代アレルギー科医長を経て、現職。

かみ じま みち ひろ
上島通浩先生

エコチル調査愛知ユニットセンター長
エコチル調査運営委員会委員長
名古屋市立大学大学院医学研究科環境労働衛生学教授

講演者／パネリスト

専門は衛生学。化学物質による健康リスクの解明をテーマに研究を行っている。エコチル調査では愛知ユニットセンター長、エコチル調査運営委員会委員長を、また、他に環境省中央環境審議会専門委員等も務める。東北大学医学部を卒業後、米国カリフォルニア大学バークレー校自然資源学部環境科学政策管理学講座客員研究員、名古屋大学大学院医学研究科環境労働衛生学准教授などを経て、現職。

なか やま しょう じ
中山祥嗣先生

国立環境研究所エコチル調査コアセンター次長

パネリスト

岡山大学医学部、大学院医学研究科卒業。専門は公衆衛生、環境保健、曝露科学。社会医学系専門医・指導医。2005年U.S. Environmental Protection Agency: EPAの招聘を受け、以降6年間、EPAで新規汚染物質の曝露評価およびリスク管理に携わる。2011年より国立環境研究所。エコチル調査を環境医学の面から支えるたかから、曝露科学に関してEPAやEU、アジア諸国との共同研究を進めている。筑波大学大学院客員教授、聖路加国際大学連携大学院教授。

やま ざき しん
山崎新先生

国立環境研究所エコチル調査コアセンター長

パネリスト

エコチル調査全体の運営を行うコアセンター長。エコチル調査の研究計画の調整や実施上の様々な課題の解決に日々尽力している。瞑想は欠かせない。長く大気汚染の疫学研究にたずさわる。京都大学工学部衛生工学科卒業。京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻准教授、国立環境研究所環境疫学研究室長、同環境リスク・健康研究センター副センター長を経て、現職。